

令和6年 第873回小浜市教育委員会定例会 会議録

開催日時	令和6年11月15日(金)		開会 15:30 閉会 16:30		
開催場所	市庁舎4階401会議室				
出席委員	窪田教育長	上田職務代理者	村上委員	桂田委員	坂下委員
欠席委員					
事務局	谷教育部長	畑田教育部次長	日比野生涯学習 スポーツ課長	松宮主幹	井上課長補佐
	赤崎課長補佐				
傍聴者					
会 議				会議の結果	
<p><b>委員会開会</b></p> <p>(教育長) 宣言および開会あいさつ</p> <p>今年度初めて教育委員会の県外視察研修を実施させていただいた。今年度は学校DXの先進地視察研修として、本市のリーディングDXスクール事業の指定校である雲浜小学校において戦略アドバイザーを務めてくださっている國香先生が昨年度まで校長をされていた、富山県富山市の芝園小学校と芝園中学校を訪問させていただいた。小浜市がこれから更に学校DXを推進していく上で参考になるところが非常に多くあり、大変有意義な研修であった。来年度以降についても、学校教育に限らず、社会教育や生涯スポーツ等さまざまな分野で教育委員会の視察研修を継続していけるとよいと考えている。</p> <p>本日は、教育長報告の中で教育委員の皆様からも視察研修の感想等をお願いしたい。</p> <p><b>1 会議録の承認について</b></p> <p>第872回教育委員会定例会会議録 《承認》</p> <p><b>会議録署名人2名の選任</b></p> <p>第873回教育委員会定例会会議録署名委員選任 《村上委員、坂下委員》</p>					

## 2 報告

- ・報告第16号 諸般の報告 令和6年10月18日～令和6年11月14日  
行事予定 令和6年11月15日～令和6年12月31日 《承認》

村上委員 10月19日に行われた子ども会のモルック大会は、何名の参加があったのか。  
事務局 10チーム、約30名の参加があった。チーム対抗であり、子どものみでも親子でも、チームを組んで参加できる大会である。

- ・報告第17号 小浜市教育委員会の事務の管理および執行状況の点検・評価について  
《承認》

上田職務代理者 評価委員の意見として、「評価シートの短期的改善策を有効に活用するために、同欄には前回とは必ず違う内容を書くこと」と述べられている点、また「ふるさと納税から教育分野へ予算を配分してもらってはどうか」と述べられている点に関して、それぞれ事務局の考えがあれば聞かせていただきたい。

事務局 事務局としては、年度ごとの事業の内容や状況をしっかり確認して評価シートを作成しており、短期的改善策の欄に記載する内容について、前年度と全く同一の内容とはしていないつもりであるが、そういった指摘があったことについては、改めて記載内容を見直し、改善していきたいと考えている。また、ふるさと納税の活用については、本市にふるさと納税推進室が新設されたという話題の中で、「例えばふるさと納税の内の一定割合を教育分野に割り振るといった方法も考えられる」というご意見をいただいた。

上田職務代理者 いじめ等問題行動対策委員会について、警察関係者やネットパトロール関係者等にも参加していただくことは非常に大事だと思う。このことについて、現段階で具体的な考えがあれば聞かせていただきたい。

事務局 いじめ等問題行動対策委員会の委員は、設置要綱に基づき弁護士や学識経験者等に務めていただいているが、今後は警察関係者やネットパトロール関係者といった専門分野の方にも委員に加わっていただけるとよいと考えており、人選等について今後前向き行っていきたい。

坂下委員 小学校 ICT 教育環境整備事業については、効率性のポイントが少し低めでB評価になっているが、評価委員からは前向きなご意見をいただいている。それらの意見を踏まえ、更に改善していけるとよい。

上田職務代理者 市民協働地域環境づくり（小学校）の課題について、環境整備に取り組むためには、各学校において必要な整備内容を精査する必要があると記載されているが、具体的にどういった面で精査が必要と考えているか。

事務局 毎年 PTA や地域のボランティアグループの方に奉仕作業をしていただいている。その作業内容について各学校でしっかり計画を立てて取り組むことで、より効率的で効果的な事業実施が可能になると考える。限られた事業予算での活動であるので、事務局としては予算のあり方を工夫しなければならないと考えている。

教育長 それぞれの事業において、PDCA サイクルの中で評価を活かしていくということが何よりも大事である。今年度の評価と委員からいただいた意見をしっかりと理解し、来年度以降のアクションプランを見直す等、効果的な取組みに向けた準備を進めたい。

### 3 議案

・議案第15号 令和6年度12月補正予算の要求について 《承認》

・議案第16号 令和7年度採用小浜市小学資金貸付選考委員会委員の推薦について  
《村上委員を推薦》

・議案第17号 小浜市要保護および準要保護児童生徒就学援助費支給要綱の一部改正  
について 《承認》

村上委員 今回の改正によって援助を受けやすくなるといったことはあるのか。

事務局 改正後の需要額算定方法を適用しても、改正前と殆ど変わらないと認識している。

村上委員 審査事務が煩雑にならないか。

事務局 これまでの定額控除では、控除の内容が不明確であり、申請者それぞれの家族構

成や生活実態等に合わせて正確に判断し、必要な家庭を支援していくという理念のもと、根拠を持って算定するという国の考え方に合わせて改正するものである。

#### 4 教育長報告

##### ・教育委員会県外視察研修報告

教育長 富山市の芝園小学校と中学校への視察研修を通して、本市の学校DXの推進に関して多くの知見を得ることができた。教育委員の皆さんにも先進校の取組みを実際に見ていただき、非常に有意義な研修であったと感じている。順番に感想等をお聞かせいただきたい。

上田職務代理者 広々としたオープンな教室で、一人一台端末を活用した非常に良い授業形態を見せていただいた。また、職員室の先生方の机の上に荷物が全くなく、パソコンだけが置いてある状況だったのが印象的であった。非常に整然としており、デジタル化による効率的な授業や校務の様子を知ることができた。

村上委員 小浜市の研究授業もいろいろ見せていただいている中で、今回は県外の学校を訪問させていただいたが、3年生がそれぞれ自分たちで考えて、先生の指示のもと自分たちの学びを要領よく進めており、大変驚いた。教室がオープンで広々としたスペースになっており、それぞれ自分の好きな場所で好きな形で学びを進めていた。ホワイトボードを使って2人で話し合っている子、黒板の下に複数人で座ってタブレットを開いている子、先ず紙に書いてまとめた後、タブレットに打ち込んでいる子など、各々が自分のやり方を自分で考えて学んでいる様子を見せてもらった。一方、5年生の教室には、手書きの調べ学習や手書きの新聞が掲示しており、タブレットを使った学習一辺倒ではなく、自分で書くということも大事にしておられた。従来の紙と鉛筆を使って書くことと、ICTの活用とのベストミックスが非常に大事であると感じた。

坂下委員 芝園小学校の授業の進め方や、子どもたちが授業に向かって取り組む姿勢は非常に参考になった。「取り組み始めた1年目はとにかく使ってみるところからスタートし、段階的に発展させて現在に至っている」という説明を聞き、小浜市も今まさに第一歩を踏み出したところなので、これから来年度以降のDXの進め方についても参考にな

ったと思う。一方、中学校に関しては、小浜市はDXが進んでいると感じた。小学校と中学校で、多少の差はあるとしても同時に取組みを進めることができている小浜市は、先生間の情報交換もでき、子どもたちにとっても小学校から中学校まで同じ方法で学びを継続できる、という点において、強みになるのではないかと感じた。

桂田委員 富山市の視察研修では、小学校の方が早くから取組みが進められており、タブレット端末を上手く活用しながら自分たちの学びを深めることができている一方、中学校では、やはりその先に高校受験が控えていることから試験対策も必要であり、授業DXの推進は小学校よりも難しさがあるように感じた。先日、小浜中学校の英語の授業を参観させていただいたが、デジタルツールを上手く取り入れている様子を拝見し、他の自治体の取組みと本市の取組みの両方を知ることができて大変よかった。

教育長 中学校では、これまでいわゆる受験学力と学習指導要領で目指しているものとのダブルスタンダードでやってきた部分が、徐々に一本に修練しつつあるのが現在の状況である。その点小浜市では小学校よりも中学校において格段にDXが進んでおり、中学校が牽引して小学校のレベルが上がっていくというのは、非常に強みであると感じている。小浜市には、3S学習という子ども主体の教育を40年以上行ってきたという歴史があり、3S学習の必要な部分をアナログからデジタルに移行させて実践していくということで、先生方に比較的スムーズに受け入れられたのではないかと考える。

一方、ICTを多く使えば学力が上がっていくのかということ、そうではない。子どもたちの学び方がどう変わっていくかということが大事で、主体的・対話的な学びを通して「深い学び」の実現が目指されている。そのためのDXであるので、アナログの優れた点もバランスよく組み合わせることが、これから重要になっていくと考えている。今はとにかくDXを進めているが、ある程度進んだ時点で丁寧に検証を行い、その後の進め方を見極めていかなければならないと考えている。

事務局 芝園小学校は、令和6年度のリーディングDXスクール事業の採択校であるという点では小浜市と同じ状況であるが、これから学校DXを進めていこうとしている小浜市よりも早い段階からどのような取組みを展開してこられたのか、また、現在に至るまでにどのような課題に直面し、それらの課題をどのように解決してこられたのか、

ということが、今後小浜市の学校DXを進める上で重要だと考えるが、視察の中で得られた情報があればご報告いただけるとありがたい。

教育長 富山市には、学びに関して全国トップレベルの堀川小学校という学校がある。子ども中心の授業づくりに長年取り組んでいる学校であり、学校DXについては着手したばかりの段階ということだが、やはり授業づくりの基盤がある学校は強いと考える。また、視察した芝園小学校では3年生でも当たり前の道具としてタブレットを使いこなしており、全員ブラインドタッチができていた。休み時間や様々な細切れの時間を活用して、シューティングゲームなど遊び感覚の中で子どもたちのタイピングスキルを徹底的に鍛えている。ぜひ小浜でも実践していかなければならないと感じた。

#### 4 その他

なし

**委員会閉会** (教育長) 宣言

この会議録が真正であることを確認して署名する。

小浜市教育委員会議事録署名委員

委員 村上 郁子 教育委員

委員 坂下 貴洋 教育委員